



京都市文化観光資源保護財団

会報

No. 37



もくじ

時代祭	平安神宮 権宮司 森山太郎	P 4
わたしと京の文化財(6)	京の町家に住んで 秦興兵衛	P 5
目で見える京の文化財No. 7「京都市指定及び登録文化財」(2)		P 6
京の秋を彩る主役たち		P 8
古い寺に住んで〈14〉	神護寺住職 谷内乾岳	P 11
会員だより		P 12
保護財団の活動		P 15

会報題字 理事長 佐伯 勇
表紙 白沙村莊庭園

(京都市指定)

会	報
No.37	58.10.1
編集・発行	
財団 京都市文化観光資源保護財団	
法人	
京都市左京区岡崎最勝寺町京都都会館内	
〒606 電話 075-752-0235 (代)	

募金にご協力いただき ありがとうございました

寄付者芳名録（敬称略）57.11.8～58.3.31
—法人及び団体の部—

- 〔特別会員〕
- ※株式会社 三和銀行 〈6,000万円〉
 - ※株式会社 竹中工務店総本店 〈1,500万円〉
 - ※頂 法 寺 〈600万円〉
 - ※南海電気鉄道株式会社 〈600万円〉
 - ※株式会社 京都新聞社 〈560万円〉
 - ※一文株式会社 〈300万円〉
 - ※商工組合中央金庫 〈250万円〉
 - ※近畿日本ツーリスト株式会社 〈200万円〉
 - ※東京急行電鉄株式会社 〈187万5千円〉
 - ※ギオン・コーナー 〈150万円〉
 - ※京都労働金庫 〈150万円〉
 - ※名古屋鉄道株式会社 〈147万5千円〉
 - ※株式会社 いろは旅館 〈115万円〉
 - ※岡秀株式会社 〈100万円〉
- 〔普通会員〕
- ※株式会社 鶴屋吉信 〈27万円〉
 - ※ホテル ニュー日昇 〈25万円〉
 - ※株式会社 俵屋旅館 〈20万円〉
 - ※旅館 丸家 〈15万円〉
 - ※有限会社 錦 〈11万円〉
 - ※株式会社 ホテル西山 〈10万円〉
- 〔賛助員〕
- ※株式会社 曾根商店 〈9万8千円〉
 - ※株式会社 吉田山荘 〈9万8千円〉
 - ※土屋便利堂 〈9万円〉
 - ※有限会社 旅館さわや本店 〈7万円〉
 - ※旅館 松葉亭 〈7万円〉
 - ※株式会社 日昇別荘 〈7万円〉
 - ※山崎旅館 〈6万円〉
 - ※理研化学工業株式会社 〈6万円〉
 - ※ヤマカワ株式会社 〈5万円〉
 - ※有限会社 小林金欄 〈4万7千円〉
 - ※山田屋旅館 〈4万円〉
 - 二条城本丸参観者有志一同 〈3万7千2百4拾3円〉
 - ※株式会社 加納幸織物 〈2万5千円〉
 - ※山田繊維株式会社 〈1万3千円〉
 - ※松栄株式会社 〈1万円〉
 - ※旅館 平岩 〈1万円〉
 - ※嵯峨大念仏狂言保存会 〈3千円〉
- 社寺の部—
- 〔普通会員〕
- ※徳 禅 寺 〈40万円〉
- 個人の部—
- 〔特別会員〕
- ※伊 砂 利 彦 〈120万円〉

- ※加 勢 満 男 〈20万円〉
 - ※梅 岡 大 祐 〈17万8千円〉
 - ※岩 佐 氏 熙 〈17万円〉
 - ※竹 村 實 〈17万円〉
 - ※福 井 忠 明 〈16万6千拾円〉
 - ※丸 山 未 棹 〈11万6千2百円〉
 - ※山 本 龍 太 〈11万円〉
 - ※山 本 多 満 〈11万円〉
 - ※水 口 英 子 〈10万円〉
 - ※谷 辺 操 〈10万円〉
- 〔普通会員〕
- ※天 野 和 夫 〈9万円〉
 - ※竹 内 キ ミ 子 〈8万5千円〉
 - ※佐 野 綾 子 〈8万3千円〉
 - ※高 橋 綾 男 〈7万6千円〉
 - ※池 田 結 一 〈7万4千円〉
 - ※水 野 弘 三 〈7万円〉
 - ※原 山 喜 代 〈6万5千円〉
 - ※岡 本 保 止 〈6万1千9百9拾9円〉
 - ※山 崎 長 三 郎 〈6万1千円〉
 - ※今 井 雅 治 〈6万円〉
 - ※加 藤 雅 一 〈5万2千円〉
 - ※畠 中 正 野 〈5万円〉
 - ※神 崎 順 一 〈4万2千円〉
 - ※都 築 敬 次 〈4万円〉
 - ※友 田 弘 治 〈3万6千円〉
 - ※村 田 香 風 〈3万5千円〉
 - ※吉 田 篤 信 〈3万5千円〉
 - ※今 井 憲 一 〈3万3千円〉
 - ※松 島 浩 子 〈3万3千円〉
 - ※中 山 忠 之 〈3万円〉
 - ※山 本 良 勝 〈3万円〉
 - ※上 野 山 志 津 子 〈3万円〉
 - ※加 来 大 忍 〈3万円〉
 - ※入 山 敦 子 〈2万8千円〉
 - ※林 俊 郎 〈2万5千円〉
 - ※上 田 真 一 〈2万2千円〉
 - ※矢 野 芳 子 〈2万1千5百円〉
 - ※小 野 初 枝 〈2万1千3百円〉
 - ※戸 田 紀 一 〈2万1千円〉
 - ※小 野 英 治 〈2万円〉
 - ※佐 藤 昭 三 〈2万円〉
 - ※宮 下 満 喜 子 〈2万円〉
 - ※梅 村 良 作 〈2万円〉
- 〔賛助員〕
- ※西 原 寿 子 〈1万9千円〉
 - ※安 田 孝 夫 〈1万8千円〉
 - ※大 嶋 真 治 〈1万8千円〉
 - ※舟 木 八 重 子 〈1万7千円〉
 - ※木 原 滋 〈1万6千円〉
 - ※高 木 春 代 〈1万5千5百円〉
 - ※松 嶋 芳 子 〈1万5千円〉

- 松 田 元 〈1万5千円〉
- ※遠 藤 伊 之 助 〈1万4千円〉
- ※平 野 和 彦 〈1万3千5百円〉
- ※伊 藤 昭 一 〈1万3千円〉
- ※垂 水 稔 〈1万3千円〉
- ※盛 田 准 子 〈1万3千円〉
- ※青 木 文 子 〈1万1千円〉
- ※北 村 登 喜 子 〈1万2百円〉
- 高 橋 秀 之 介 〈1万円〉
- ※山 田 順 三 〈1万円〉
- ※田 井 四 郎 〈9千円〉
- ※小 川 幸 次 〈8千円〉
- ※岡 田 清 子 〈8千円〉
- ※寺 嶋 瑛 子 〈8千円〉
- ※谷 美 千 代 〈8千円〉
- ※森 本 す 子 〈8千円〉
- ※真 淵 紳 一 〈8千円〉
- ※五 浦 克 枝 〈7千円〉
- ※手 塚 栄 子 〈7千円〉
- ※由 利 松 治 〈6千2百円〉
- ※由 利 多 〈6千2百円〉
- ※奥 野 勝 子 〈6千円〉
- ※小 川 仁 作 〈6千円〉
- ※岩 井 貞 三 〈6千円〉
- ※市 田 登 美 子 〈6千円〉
- ※木 村 紀 枝 〈5千2百円〉
- 神 谷 潔 〈5千円〉
- 梶 村 ふ み 子 〈5千円〉
- ※ジェームズビアーード 〈5千円〉
- 友 橋 と き 〈5千円〉
- ※西 田 実 〈5千円〉

- ※中 西 惣 三 〈5千円〉
- ※米 谷 昭 子 〈5千円〉
- ※渡 辺 き く 〈5千円〉
- ※前 川 貞 一 〈4千百円〉
- ※岡 本 直 三 〈4千円〉
- ※斎 藤 ク ラ 〈4千円〉
- ※野 村 鉄 治 〈4千円〉
- ※中 山 正 子 〈4千円〉
- ※佐 藤 英 太 郎 〈3千5百円〉
- ※酒 井 朝 夫 〈3千2百円〉
- ※勝 谷 秀 夫 〈3千円〉
- ※桜 井 の ぶ 子 〈3千円〉
- ※多 葉 田 實 子 〈3千円〉
- 西 村 達 男 〈3千円〉
- 野 村 幸 三 郎 〈3千円〉
- 廣 田 峰 名 〈3千円〉
- ※石 見 安 英 〈2千円〉
- 川 村 弘 子 〈2千円〉
- ※高 沢 き み 〈2千円〉
- ※山 本 元 夫 〈2千円〉
- 横 田 静 子 〈2千円〉
- ※若 井 友 栄 〈2千円〉
- ※坂 田 和 子 〈1千2百円〉
- 岡 田 公 子 〈1千円〉
- 河 合 康 夫 〈1千円〉
- 石 見 秀 子 〈1千円〉

（※印は、追加寄付の篤志者、寄付金額は累計額。なお、昭和58年3月31日以降の寄付者の方につきましては紙面の都合により今後順次紹介させていただきますので御了承下さい。）



京のよさをまもりましょう！

—京の文化財をまもる5億円募金を達成するために
あなたのまわりの方々にも呼びかけて下さい—

当財団では、現在5億円募金活動を全国的にすすめています。

祇園祭、大文字五山送り火をはじめとする京都の文化財の保存、継承をより一層推し進めるため皆様のご協力をお願いいたします。

○新たに基金にご協力いただきます場合は、同封させていただきました納付書によりご送金下さい。

寄付金についてのお問い合わせは、当財団事務局まで

TEL (075) 752-0235 (代)



時代祭

平安神宮 権宮司

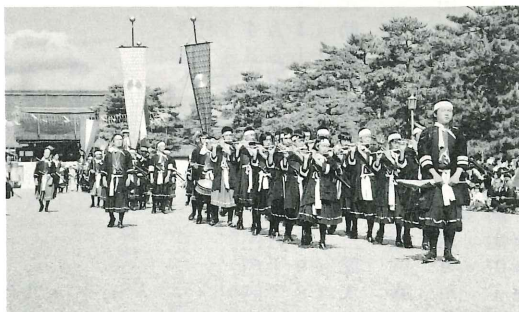
森山 太郎

時代祭は、平安奠都の日を記念顕揚して、10月22日に行なわれる行事でありまして、葵祭、祇園祭と共に京都における大祭の一つとされておりますが、その歴史につきましては、両祭とは比較すべくもありません。しかし、この時代祭もあと10年程で百年と相成り、意義ある伝統行事として人々の認識を一段と深めつつありますことは喜びにたえません。

現在の時代行列を略述致しますと、明治維新時代2列、江戸時代2列、安土桃山時代2列、吉野時代2列、鎌倉時代1列、藤原時代2列、延暦時代2列、弓箭組列で、時代行列とは別に最後に神幸列と相成るのであります。行列の総勢2千名これに付随する牛馬60数頭、列の長さ約3キロ、通過時間1時間30分、経費約3千万円というのが行列規模の概要であります。

このような行事の執行には、年々むづかしい問題もおこっておりますが、京都府・市・保護財団など関係機関又、市民の方々の深い理解と御協力によりまして、立派に執り行なわれております事は感謝にたえないところであります。私共は、先覚市民諸賢の熱意と非常な努力によって、生まれかつ育てられたこの行事を永久に護持すべき責任と義務を痛感致す次第であります。

時代祭発祥の当時、「行列取調委員、でもあった久保田米僊画伯が祭の様相をえがかれ、それに猪熊夏樹先生が長歌の賛を以て典雅華麗に



表現されております。当時の人々のこの祭に対する心意気が察せられるのであります。

「御こゝろを 平安神宮に 神ながら
鎮まりいます すめろぎの 神の尊
の大御霊 いつきまつると 大御稜
威 仰き奉ると 人皆の 力のかきり
人皆の 心の極 御代々々の あと
をたづねて 花衣 身にとり装ひ 剣
太刀 腰にとりはき 梓弓 手握りも
たし 厳矛いとりならべて 百敷の
これの都の 玉鉾の 道の長手を た
てぬきに 練りゆく見れば 千万の
花が咲きたる 八千むらの 錦が織れ
る東山 峰のこぬれに さきいづる
桜はあれど 西山の おてもこのも
に 染めいづる 紅葉はあれど 綾に
綾に うらぐはしもよ 今日のまつり
と」

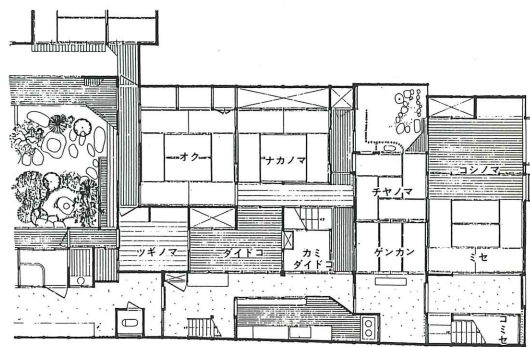
わたしと京の文化財（6）



京の町家に 住んで

秦 與兵衛

京の町家はその間口に対して奥行が非常に長い。いろいろなケースはあるが、極端な場合は4～5メートルそこそこの間口で、奥行は数十メートルに達していることもある。このように細長い敷地に建っていることが京の町家の特徴と考えられているようである。俗に「鰻の寝床」と称される所以であろう。しかし、わたしは細長い家とは別に、矩形の敷地の長辺にあたる両サイドが例外なく隣家の密着によって塞がれていることが、その最もなる特徴とするべきだろうと思う。住宅の快的な居住性を求めるうえで、これは苛酷な立地条件で、そのために、古来なされてきた工夫が町家の独特の構造となっているからである。個々の家の構造上の工夫の他に、見逃せないのは、集団としての「連繫」である。つまり、居住域と庭園域、通り庭（通路）等の位置がどの町家でも同一のパターンから成っており、互いに充分な日照と生活音の隔絶を計っ



秦家住宅 平面図



今回京都市の文化財として登録された秦家住宅。屋根付看板のある表構えなどから京都の伝統的商家の風格が感じられる。

ている。従って、町家は自由奔放な単体としては存在し得ないのであって、全体のバランスを考えた巨大な構造物なのである。地域社会における一つの高度な精神文化といえよう。

それはさておき、町家にはさまざまな陰翳がある。そして、それは春夏秋冬、朝な夕な微妙にうつろう。

夏日に照える奥庭は白光のるつぽである。しかしその強烈な日射しも、深い庇と巾広い縁のこなたまでは届かない。葎葎と細い割竹の簾を透った光線は、まるで海底の明りに似たほのかさである。鉛色の簾簾はひんやりと冷たい。

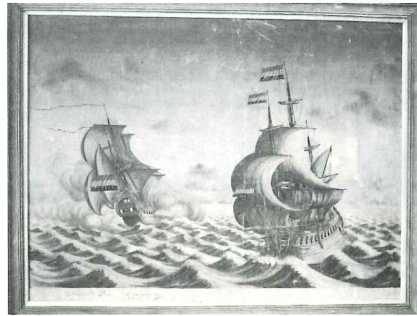
深々と牡丹雪が降りしきるときは、炬燵の部屋からガラス越しの坪庭を眺めるのもよい。大屋根、小屋根に囲まれて井戸の底のような坪庭にも雪は降る。それは盛大に降りつもる外景の雪ではない。ときに数片の羽毛のように、しかしおどろくほどくっきりと白く落下する雪は、わが身近く、居間の中に降る雪である。これが嬉しい。

京の町家は、さきに述べた「連繫」のバランスが乱れないかぎり、「人の住むところ」として最適の場であるといっても過言ではない。

（祇園祭山鉾連合会副会長）

京都市指定及び登録文化財(2)

—美術工芸品の部—



洋船図扁額 一面（指定） 今宮神社
長崎の洋風画家若杉五十八が寛政3年(1791)に描いたもので、カンバスに油絵具を用いている点、当時としては珍しいものである。奉納したのは、島原角屋の祖、中川道哲と思われる。



蘭亭雅会図扁額 一面（指定） 八坂神社
南画の大成者の一人である池大雅が宝暦4年(1754)に描いたもので、中国晋代に王羲之ら文人墨客42人が蘭亭に集まり、流水に盃を浮かべて詩を作ったという故事を描いている。



曳馬図扁額 二面（指定） 北野天満宮
堺の画家曾我直庵が慶長15年(1610)に描いたもので、金箔地の華麗なものである。豊臣秀頼が武運長久を祈願して奉納したものであり、制作時期も関ヶ原合戦と大坂の陣の間にあたり興味深い。

京都市では、京都市文化財保護条例にもとづいて、初めての京都市文化財として、35件を指定、50件を登録しました。今回の京都市の指定及び登録は、市民生活や地域社会とのかかわりを重視し、地域に根ざした文化財を多くとりあげているのが特徴となっています。美術工芸品では、絵画3件、彫刻4件、考古資料1件の計8件(9点)を指定し、古文書17件を登録しました。

ここでは、美術工芸品の指定8件と、名勝として指定した白沙村莊庭園をとりあげました。



旧二条城関係の石造物群 362点（指定）

烏丸線地下鉄工事で発見された旧二条城石垣の一部に用いられていたもので、石仏、石碑、石塔などからなる。これらの石造物は、現在洛西の竹林公園で展示され、一般に公開されている。



阿弥陀如来坐像 一軀（指定）



阿弥陀如来坐像 一軀（指定）

2軀とも西向寺本堂に客仏として安置されているもので、平安時代後期の製作と考えられる。衣文の一部を除いて両像は区別がつかない程良く似ており、同一工房による製作と思われる。



薬師如来坐像 一軀（指定） 法傳寺

頭部と体部のバランスがよく整い、量感も程よい一木造りの如来坐像で、洗練された作風を示している。衣文などの表現から、平安時代中期の製作と考えられる。



阿弥陀如来坐像 一軀（指定） 専定寺

古くより専定寺が妙法院から預り、本尊としているもので、作風から見て平安時代後期の典型的な作品である。後白河法皇が造らせた仏像の1つとしても貴重なものである。

—名勝の部—



白沙村莊庭園（指定）

白沙村莊は、近代日本画の巨匠橋本関雪が大正5年以降営んだ邸宅である。庭園は池を中心とする回遊式庭園で、優れた石造美術品も多い。全体として、関雪画伯の豊かな感性が感じられ、どの部分をとっても絵になる庭園である。

(表紙 写真掲載)

京の秋を彩る主役たち

祇園祭や、大文字五山送り火など夏の行事も終ると、京都にも秋の訪れが感じられるようになります。秋は、京都らしい優雅な行事、芸能が多彩にくりひろげられますが、そのなかで一段と私たちの目をひくのが、まつりの主役たちです。

今回、この秋を代表するそれぞれの行事芸能の中心になって奉仕、活躍されるみなさんにご登場いただきました。



北白川高盛の 奉納をつとめて 山内 裕美

高盛……子供の頃からあの丸く、三角に、高く、きれいに積み上げられているこいも、大根、するめを見るのが好きだった。なぜかわからないけれど、ひかれるものをもっていった高盛。その頃は、今と違って朝の早い時間に行なわれていたけれど、毎年、高盛の日には早起きをして見に行っていた。どんな意味があるのかも知らずにただ見に行っていた。そして、わたしも一度でいいから頂いてみたいと思っていた。でも、「自分のような者では、絶対そんな事ありえない」と思っていたのに声をかけてもらった時は、本当にうれしかった。

私が初めて高盛を頂いたのが、高校2年生のとき。「感想は？」と聞かれたら今でも、迷わずに第一声は「重かった」と答える。

それ以来、私は何回となく高盛を頂くようになったが、どんなに重くてもあの高盛を奉納できれば、大役を終えた充実感でいっぱいになる。これで今年も無事にお祭りがむかえられると思



北白川高盛御供 10月7日 午前7時30分
北白川天神宮（京都市左京区北白川）

うとほっとすると同時にうれしくなってくる。

今では、「高盛さん」と呼ばれ皆に親しまれるようになったわたし。この行事をずっとずっと残していって欲しいと思う。

きたしらかわたかもり ごくう □ 北白川高盛御供

高盛御供は、古くから北白川に伝わり、氏神の北白川天神宮へ神饌を奉納するめづらしい行事。
土器の上にミソをつなぎとしたこいも、大根なますきざみするめをそれぞれ円錐形に高く盛ったものが神饌の本膳で、わきに盛相（ご飯）のほか白トウフ、飛び魚やシイラの焼きものが添えられる。
夜を徹してつくられ、翌早朝 白川女姿の女性がこれを頭にいただいて神前に供える。



菩薩になった わたしたち 山本 麻矢

秋になるとおねり供養があります。私は、幼稚園に行っているころは「お稚児さん」として、6年生の時には「菩薩様」として出ました。お稚児さんでは、果物、乾物、お菓子などがのっている「三方」をお供えします。私より小さい児は、お供えのお菓子はをなさず、駄々をこねていたのが思い出されます。

菩薩様は、仏様が天上界から下界へ、また下界から天上界へ上がられるのをお供するのです。前日、私達25人は菩薩様としてふさわしくなるため、仏様の前で「誓いのことば」を唱えました。当日は、秋晴れのよい天気でしたので金らんの衣装がキラキラと光ります。その衣装とお面をつけ私は高い廊下を歩いていきます。でも、お面には小さな眼の部分と口の部分しか穴がいていないので、とても息苦しく見えにくいのです。むろん、友達の姿やおばあさん達の姿な



わたしたちの 晴れ舞台 長島 直子

いよいよ、私のおどる番がやって来た。私がおどり子になるまであと3年ある、あと2年ある、もう1年あると言ってお姉さん達が、おどる姿を見て来ましたが今年、6年生になった私達は、いよいよ10月10日の赦免地おどりに出なければならないと思うと、胸がおどります。ま



二十五菩薩お練り供養法会 10月9日 午後1時 即成院（京都市東山区泉涌寺山内）

ど見る事すらできません。でも、他の人より高い所を歩くというのは、とても気持ちがよくて優越感を感じます。

また秋が近づきました。おねり供養があります。おねり供養に出るのを心待ちにしています。

にじゅうごぼさつ おねり しょうほう え □ 二十五菩薩お練供養法会

即成院（京都市東山区泉涌寺山内）本尊の阿弥陀如来及び二十五菩薩にちなみ、人間を極楽浄土に導くため、境内の本堂を極楽浄土とし地藏堂を現世になぞらえてその間に橋をかけ、金欄の菩薩装束を着けた25名の児童達がおねりを行なう。



八瀬赦免地踊 10月10日 午後8時 秋元神社（京都市左京区八瀬）

だ、日はあっても不安と楽しみが心の中でうず巻いています。今からこんな様子なので、その夜には気が気じゃない。まちがえでもしたら、二百数十年おどりがれているのにはずかしいし、責任重大です。おとしの赦免地おどりのことが新聞にのっていました。

「一回限りの晴れがましき」「胸をときめかす伝統行事の大役」など、その新聞にも書いてありました。これは、ガンバラナクテワ……と思いました。八瀬の里で生まれ育った私は、八瀬



城南宮 曲水の宴に舞う

徳平京子

洛南の名社 城南宮の広い立派な神苑において、春と秋に曲水の宴が行なわれます。

歌人詩人の方々は狩衣立烏帽子、女性の方々は桂姿という優雅な装いで清らかな流れを前に絵巻がくりひろげられますが、この中に白拍子しらびょうし舞まいがごぞいます。私は、この舞姫として奉奏をつづけさせて頂いております。白拍子舞は、女性が立烏帽子に水干装束、長袴という平安朝末期の珍しい男装の麗人ともいべき女舞として五本骨の扇をかざし、当時の貴族達にもてはやされ、非常に流行したと平家物語にも出ていますが、今様歌に雅楽の伴奏で優雅ななかにも男性的な舞振りとなっております。また、舞姫も祇王、祇女姉妹、仏御前、静御前などの名手が現れていることは平家物語でも御承知の事と存じます。

このような白拍子舞を舞わせて頂くという事は、望外の喜びと、楽しく奉仕を続けさせてい

小学校最後の思い出の一つとして、いや一生の思い出としてお姉さん達に負けずに一生けんめいがんばろうと思います。今から心が、はずんでいます。

やせしやめんちおどり □ 八瀬赦免地踊

美しい透かし彫りのある切子灯籠を頭にのせてねり歩くほか、秋元神社の舞台上で京都市立八瀬小学校6年生の女子生徒により汐汲、花つみなどの踊りが奉納される。



曲水の宴 11月3日 午後2時 城南宮（京都市伏見区中島）

ただいている次第でございます。なかでも、私にとって忘れられないことは、先年若きプリンス裕宮殿下がこの城南宮にお参りのとき、この神苑にて曲水の宴の時のように白拍子舞を御覧になり拍手を賜った事でございます。誠に光栄と大切に胸もふくらむ思い出でございます。この優雅と歴史に包まれたこの行事が長く続きますよう深く念願するものでございます。

きよくすい えん □ 曲水の宴

曲折したゆるやかな清流に朱の杯をのせた水鳥の形をした羽觴を流し、その盃が流れつくまでに和歌をつくり終えるもの。琴が奏でられ雅びやかな白拍子姿の女性が、鮮やかに舞うなか、その場で披露される歌題に人々が思いめぐらした三十一文字の和歌を読みあげ、その酒杯をいただくという優雅な行事である。春は、4月29日 秋は、11月3日 それぞれ城南宮楽水苑の平安の庭でおこなわれる。



古い寺に住んで 〈14〉

神護寺 住職

谷内乾岳

神護寺住職となって今年で30年目を迎えるが、晋山の直後、ふとしたことで束ねられた古文書の中から、寛永年間に書かれた「一切経蔵虫弘定」の原本と数枚の写本を発見した。開山以来の一千二百年が、激動の歴史として綴られているにも拘らず、仏教美術の殿堂といわれる程の多くの霊宝が今に伝えられており、なぞが解けた思いであった。

ながい復興の歴史をつづるこの寺を「不死鳥のように生きつづける山寺」と評した人があるが、ほぼ300年から400年ごとに激しい盛衰を繰り返している。

先づ最初の衰微は、平安末期12世紀半ば頃、その時の様子を中興文覚上人は「高雄顛倒」、「人法共に断絶、堂屋悉く破滅」と記している。



国宝 源頼朝像 蔵 神護寺



いんごし
神護寺
(京都市右京区梅ヶ畑高雄町)
高雄山と号し、高野山真言宗の別格本山である。当寺の起源については、明らかではないがもと高雄山寺といい、天応元年(781)愛宕五坊の一つとして建立されたといわれる。天長元年(824)和気清磨が河内国(大阪府)に建てた神願寺をこの地に移し、空海(弘法大師)が住持となって、寺号を神護国祚真言寺と改められた。その後、次第に衰微し寿永3年(1184)文覚上人の中興もあったが、応仁の乱で再び荒廃し現在に至っている。所有の文化財は、建物では桃山時代再建の大師堂(重文)のみであるが、仏像では薬師如来像(国宝)五大虚空蔵菩薩像(国宝)などすぐれたものが数多くある。



長い石段の参道と山門

顛倒の原因は明らかではないが、平家物語の作者も、すべて寺宝が山外に持ち去られ、わずかに残った本尊薬師如来(国宝)も風雪にさらされていたと語っている。

文覚、上覚、明恵とうけつがれて復興された堂塔伽藍も、戦国時代の兵火によって灰燼に帰し、16世紀前後には「一山三衣にも事欠く有様なれば……」と窮乏を陳情し、寺域の返還を訴えている。

近くは明治維新の廃仏棄釈によって、開山以来護持された寺域のことごとくは「上地」という名の没収のうえ、官有地となり、同時に山内の支院7ヵ寺、増坊15が廃絶されて、寺運も消滅寸前であった。

漸く昭和に入って建物の大改修を行ない、昭和27年には、ほぼ90年ぶりに、もとの寺域の一

部が境内地として返還され、今日に至っている。

この間、数知れぬ霊宝を失っているが、なお多くの貴重な宝物を伝えているのは、復興のたび毎に「虫払定」を再確認し、中世以降の年毎に行なってきた「古法の如く」或は「先規に任せ」ての遺戒と「一物一字たりといえども、がんせい眼睛を守るが如くす可きこと」の先師の情熱が受けつがれたお陰である。



神護寺境内。紅葉の頃になると多くの人達が訪れる。

会員だより



私の好きな京都

小柳美代子

京都市上京区寺町今出川

学生時代、関西旅行に来る度に、こんなすばらしい京都に住んでみたいと、あこがれたものです。縁あって希望どおり京都に住むことになり、毎日見学した金閣寺、銀閣寺等の社寺、又は嵐山など、その日その日の京都の美しさ、歴史又は文化伝統を、両親に書き送ったものである。

しかし、その後、子育て、仕事に追い廻され、ホッ！と気がついたら50代近く。その後いろいろの団体の役員をし、社会参加をしながら京都再見をする。見学すればする程好きな京都に住む幸せを誇りに思う。

鴨川の橋からながめた夕焼けの景色に心もなごむ。

祇園祭をはじめ京の三大祭は、何回見てもスケールの立派さ、みやびやかさにさすが京都と感激する。

今年6月、婦人会からアメリカ東海岸へ研修旅行に行き、ニューヨーク、ワシントンの他にボストンでは、京都市長のメッセージを持って市役所へ表敬訪問をし、大変歓迎していただいた。さすが姉妹都市だけあって伝統も文化も進んでおり、落ち着いた赤レンガの建物の風格など京都によく似ている。余談であるが副市長二人が女性であることもさすがと思う。市民の市政への協力と、役所の屋上に高くそびえる金のドームは尊敬と誇りの象徴のようである。

その意味では私達京都市民も市政におおいに協力し、そして美しい風土とともに歴史と文化を後世に伝えることが、私達市民一人ひとりに課せられた大きな仕事ではないでしょうか。

(当財団評議員 京都市地域婦人会連絡協議会常任委員)

地下鉄から

田村彰敏

京都市左京区下鴨

京都市の地下鉄は、開業から早や2年が経過し、昨年度は、1日平均12万1千人の旅客を輸送した。

ところで京都市の地下鉄の特徴として通勤・通学の旅客のほかに、千年の古都としての性格から観光客の輸送のウエイトが大きいということがあげられる。とにかく、地下鉄沿線で葵祭、祇園祭、大文字五山送り火、時代祭と京の四大大行事が催されるのである。

これら祭の当日には、私達は、旅客の案内誘導に、乗車券の発売にと忙殺される。今年の祇園祭の宵山の日には、土曜日ということもあって22万7千人の利用客があり、開業以来最高の記録となった。当日、四条駅では、午後7時ご

ろからプラットホームやコンコースは人の波であふれんばかりになった。このように人々を引き付けて離さない祇園祭の持つエネルギーの巨大さにあらためて驚嘆したことであった。

制服を着て立っていると、旅客からこまかい質問を受けることがあるが、十分な案内ができないときは申し訳なく思う。まず、接客をする私自身、京都の伝統行事、芸能、文化財について理解を深め、その精華を伝えられるよう勉強することが必要であると痛感している次第である。

(京都市交通局高速電車課勤務)

京の主な年中行事 (10月～12月)

10月 (神無月)

と き	行 事	と き	行 事
1～5日 (土～水)	瑞 饌 祭 北野天満宮 ○ずいき神輿の飾り(1日～4日)御旅所 ○神幸列の巡行本社出発(1日午後1時) ○着御祭(1日午後5時)御旅所 ○献茶祭(2日午前10前)御旅所 ○甲御供奉納饌(3日午後2時)御旅所 ○ずいき神輿の巡行(4日午後1時) ○奉射祭-弓道(4日午後1時)本社 ○後宴祭(5日午後3時)本社	19～21日 (水～金)	二十日ゑびす大祭 惠美須神社 ○宵ゑびす祭(19日午後8時) ○ゑびす講大祭(20日午後2時) ○のこり福(21日午後8時)
7 日 (金)	北白川高盛御供 北白川天神宮 ○神饌奉納(午前7時30分)	22 日 (土)	時 代 祭 ■行列進行順路と通過予定時刻 京都御苑建礼門前(正午)～烏丸丸太町(午後12時30分頃)～烏丸御池(午後1時頃)～河原町御池(午後1時25分頃)～三条大橋東詰(午後1時40分頃)～三条通神宮道(午後2時15分頃)～平安神宮応天門(午後2時30分頃)
9 日 (日)	二十五菩薩お練供養法会 泉涌寺即成院 ○法 要(午後1時)	22 日 (土)	鞍馬の火祭 由岐神社 ○祭 事(午後6時頃)
10 日 (月・祝)	八瀬赦免地踊 八瀬 秋元神社 ○赦免地踊及び踊奉納 (午後8時～午後11時)-雨天中止-	25 日 (火)	拔 穂 祭 伏見稲荷大社 ○祭 典(午前11時)
10 日 (月・祝)	六孫王神社例祭 六孫王神社 ○宵 宮(9日) ○神幸祭 神輿巡行(午後1時)	29 日 (土)	余 香 祭 北野天満宮 ○祭典、和歌の披露(午後2時)
10 日 (月・祝)	牛 祭 広 隆 寺 ○祭 事(午後7時)		
10・11日 (月祝・火)	講 員 大 祭 伏見稲荷大社 ○祭 典(10日午後1時) ○島原太夫道中(10日午前10時30分～正午) ○狂 言(11日午前11時～正午)		
19 日 (水)	船 岡 大 祭 建 勲 神 社 ○神殿祭(午前8時) ○舞楽、弓取神事(午前11時～午後2時)		



瑞 饌 祭



鞍馬火祭

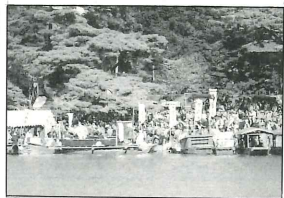
11月（霜月）

と き	行	事
1 日 (火)	亥 子 祭 ○祭 典 (午後 5 時) ○禁裏御玄猪調貢列 (午後 6 時30分)	護 王 神 社
1 ～30日 (火～水)	七五三詣り	市内各神社
3 日 (木・祝)	曲 水 の 宴 ○曲水の宴 (午後 2 時) ○神苑 楽水苑特別無料公開 (午前 9 時～午後 4 時30分)	城 南 宮
3 ～23日 (木祝～水祝)	秋の業平塩竈まつり ○祭 事 (午後 1 時)	十 輪 寺 ―雨天中止―
8 日 (火)	火 焚 祭 ○本 殿 祭 (午後 1 時) ○火焚神事 (午後 2 時斎場) ○御神楽 (人長舞) (午後 6 時本殿前)	伏見稻荷大社
13 日 (日)	嵐山もみじ祭 ○箏曲小督船、今様歌舞船、 嵯峨大念仏狂言の披露など (小雨決行・雨天中止) (午前10時30分・午後1時30分・午後3時30分)	嵐山渡月橋付近

12月（師走）

と き	行	事
1 日 (木)	北野天満宮献茶祭 ○献茶祭 (午前10時)	北野天満宮
3 日 (土)	交通安全の御祈禱並びに大祓の神事 ○祈願祭 (午後 2 時)	須 賀 神 社
7・8 日 (水・木)	大根だきと成道会法要 ○大根だき (午前10時～午後 5 時) ○成道会法要 (8 日午前11時)	千本釈迦堂
8 日 (木)	針 供 養 ○針供養法要、日本舞踊など披露 (午後 1 時)	法 輪 寺
9・10日 (金・土)	鳴滝の大根だき ○大根だき (午前 9 時～午後 4 時)	了 徳 寺
11 日 (日)	義士まつり ○義士行列(毘沙門堂午前10時～三条街道～ 山科駅前～山科区役所～岩屋寺～大石神社 午後 3 時30分)	山 科
13～25日 (火～日)	大 福 梅 ○大福梅授与 (午前 9 時～午後 4 時)	北野天満宮
13～31日 (火～土)	かくれ念仏 ○念 仏 (毎日午後 4 時)	六波羅蜜寺
14 日 (水)	義士会法要 ○法 要 (午前10時) ○島原太夫献茶式 (正午)	法 住 寺

と き	行	事
15 日 (火)	法住寺大護摩供 ○島原太夫道中・かしの式 (正午～午後 2 時) ○祭 典 (午後 2 時)	法 住 寺
21～28日 (月～月)	東本願寺報恩講 ○法要(午前7時・10時30分・午後2時30分) ○報恩講結願 (28日午前10時30分)	東 本 願 寺
23 日 (水・祝)	筆 供 養 ○稚児、山伏のお練行列 (午後 1 時) ○筆供養 (午後 2 時)	東福寺 正覚庵
26 日 (土)	御茶壺奉献茶 ○祭 典 (午前11時)	北野天満宮



嵐山もみじ祭



正覚庵 筆供養

と き	行	事
21 日 (水)	終 い 弘 法	東 寺
25 日 (日)	終 い 天 神	北野天満宮
25 日 (日)	御身拭式 ○御身拭式 (午後 1 時30分)	知 恩 院
31 日 (土)	除夜の鐘	知 恩 院
31 日 (土)	おけら詣り ○おけら火授与 (31日午後 7 時30分より)	八 坂 神 社

*都合により行事、日程が変更される場合がありますのでご了承下さい。



千本釈迦堂 大根だき



知恩院 除夜の鐘



回京都御所秋季一般公開

期 間 10月16日(日)～10月20日(木)
午前 9 時～午後 3 時
※この期間中は、一切の手続きなしで
参観できます。

回秋の寺宝特別展

東寺宝物館秋季特別展 9 月18日～11月23日
仁和寺名宝特別展 10月 1 日～10月15日
醍醐寺霊宝館秋季名宝展
10月 1 日～11月23日
大徳寺本坊曝涼展 10月10日
永観堂寺宝展 11月 1 日～11月25日
宝鏡寺秋の人形展 10月15日～11月10日
―いずれも有料―

保護財団の活動

―京都市民俗文化財指定登録記念―

第14回 郷土芸能の夕

今年 6 月民俗文化財として京都市がはじめて
指定、登録をした民俗芸能の中から京都の最北、
久多に伝わる素朴な踊「久多花笠踊」や京都洛
北の 4 地域に伝わる「やすらい花」などを一堂
に集め、京のわらべうたとともに紹介する。ま
た、西京区桂に20数年ぶりに復活した桂六斎念
仏も、今回皆様に披露いたします。

日 時 10月29日(土)午後 6時30分開演
場 所 京都会馆第 2 ホール
出 演 久多花笠踊・やすらい花 (今宮
やすらい花・玄武やすらい花・
川上やすらい花・上賀茂やすら
い花)・上賀茂紅葉音頭・木遣

回未公開寺院特別拝観

期 間 10月30日(日)～11月 7 日(月)
午前 9 時～午後 4 時
対象寺院：隣華院・天球院・霊雲院・退蔵院
・玉鳳院 (11月 5 ・ 6 日休み)・
聚光院・興臨院・玉林院・(11/1
～11/6) 林丘寺 (11/1～11/5)
・法然院 (10月30日休み)・霊鑑
寺・西翁院・即宗院。

拝 観 料 1 ャ寺 500円
主 催 京都古文化保存協会
(お問い合わせ (075) 561-1795)



昨年の郷土芸能の夕より

音頭 (番匠儀式)・神泉苑狂言
・桂六斎念仏・京のわらべうた

司 会 露乃五郎
構成・演出 権藤芳一 (京都観世会事務局長)
入 場 料 当日券 1,200円
前売券 900円
団体券 800円 (15人以上)
京都市内各プレイガイドで発売
主 催 京都市
京都市文化観光資源保護財団

※本催の入場料を当財団会員の方に限り、優遇させていただきます。ついては、郷土芸能の夕会員割引券を切りとり当日、入場券売場へご提出下さい。

郷土芸能の夕
会員割引券

¥ 800

お1人様1枚限り

京都市文化
観光資源保護財団

昭和59年版

文化財カレンダーのお知らせ

テーマ「京の花鳥画」

毎年、京都の貴重な文化財をとりあげ作成しております文化財カレンダー昭和59年版は「京の花鳥画」(規格：B3、7枚もの表紙含む6色刷)と題し、代表的な四季おりおりの花鳥画を集め企画いたしました。

カレンダー配布ご希望の方は、次の要領によりお申し込み下さい。

□申込方法 文化財カレンダー申込及び住所、氏名(法人の場合は法人名と代表者名)を記入のうえ、切手350円分(郵送料)を同封し、封書によりお申し込み下さい。

□申込期間 12月1日まで

□申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町
京都会館内

財団法人京都市文化観光資源保護財団

⑨○申し込み資格は、当財団会員に限りです。

○申し込み部数は、1人につき1部とします。

○なお、申し込み多数の場合は、制限することがありますのでご了承下さい。

第37回 文化財特別参観のご案内

—東福寺塔頭—

りゅうぎんあん そくしゅういん
“龍吟庵”と“即宗院”

今回は、紅葉が一段と鮮やかな東福寺を訪ね、非公開である塔頭 龍吟庵と即宗院の庭園など文化財の数々を鑑賞いたします。

□参観日時 昭和58年11月26日(土)

午後2時(参観時間約2時間)

□対象者 財団募金協力者(会員)とその家族

□申込方法 住所・氏名・年令を記入し、返信用切手60円分を同封の上、封書によりお申し込み下さい。

□申込先 京都市文化観光資源保護財団宛

□参加費不用

※お問い合わせは、財団事務局まで。なお、参加ご希望が多い場合、制限することがあります。

編集後記



■さきにこの欄においても紹介しましたが、昨年11月より京都の文化財をまもる募金箱を市内およそ500カ所に設置し、市民や観光客のみなさんに募金の呼びかけをおこなってまいりましたが、先程回収をおこなったところ140万円にもよる募金が寄せられました。事務局では、ご協力いただいたこのような方々の熱意にこたえるためにも、なお一層努力してまいりたいと存じます。また、募金箱設置にあたりご協力いただきました各関係機関等に対し、あらためて紙面をかりて御礼申し上げます。

—— 差別をなくして明るい社会をつくろう ——